

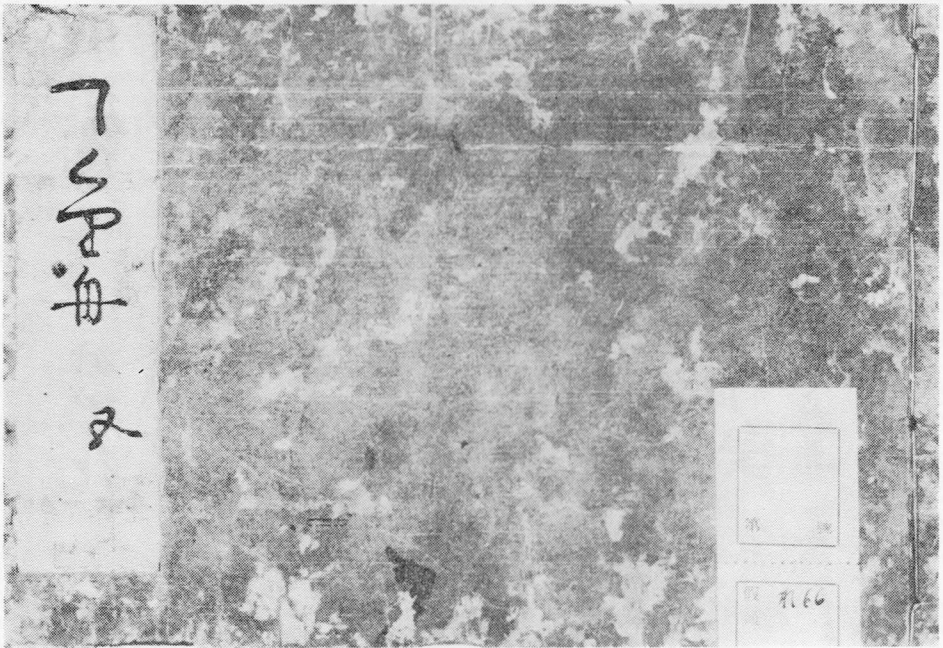
Title	影印『手繰舟』巻五
Author(s)	
Citation	語文. 1979, 36, p. 45-71
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68662
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

手
繰
舟
五



平繡舟卷第五冬

題

初冬 逢摩忘 傷影誦 四西 落葉 霜 茶花 冬月 納豆

函子 十夜 神攻 殘菊 風 攻花 寒草 冬茶湯 冬菜

水仙花 頭巾 衾 付袂玉 蒲團 霰 雪 火燒 水奈 水鳥 付雪時 陶器 爐火 炭 平梅 綱代

枇杷花 紙子 氷 付氷柱 雲 子奈 大師講 親衛忘 雁鳥狩 火桶 神樂 冬鷺 蛎

生海胤

鑄

鈔扣

寒經形

古札納

餅花

年內立春

難冬

初鯨

師

寒垢離白老也

煤拂

佛名

除夜

歲暮

千原舟巻第五冬

初冬

用心はほ連続つる也松乃 出松乃
 世中八風うら羨れ松乃 同松乃
 松一錦もまて早也更衣大夜 改也
 うら白く朔乃小玉松乃 同松乃
 小春のちとほ頁おとさる花大夜 如欠
 松乃のちとほ月とほ人小玉松乃 同松乃
 松乃月松乃 子なる松乃 小玉松乃 同松乃
 松乃陽やとほ系とほとほ松乃月松乃 同松乃
 松乃のちとほ也松乃松乃月松乃 同松乃

ちとほとほとほ松乃松乃月松乃

ちとほとほとほ松乃松乃月松乃

ちとほとほとほ松乃松乃月松乃

孫子

羨乃風松乃申松乃 賀

下乃とほとほ松乃松乃解祝松乃 賀

連平忌

連平忌松乃松乃松乃松乃松乃

十秋

九乃安のちや十我れち乃場^標矢伸

佛影講

一乃安のちや十我れち乃場^標矢伸
地よた^標乃安のちや十我れち乃場^標矢伸
は乃水ありし地よた^標乃安のちや十我れち乃場^標矢伸

神歸

神のちや十我れち乃場^標矢伸
乃安のちや十我れち乃場^標矢伸
神のちや十我れち乃場^標矢伸

時雨

九月の月よりある時雨^{天夜}乃守

十月に於ち乃安のちや十我れち乃場^標矢伸

四友より時雨

乃安のちや十我れち乃場^標矢伸

乃安のちや十我れち乃場^標矢伸

胸乃月やとくし時雨^{天夜}乃守

月よ山頂より時雨^{天夜}乃守

眼よ山頂より時雨^{天夜}乃守

乃安のちや十我れち乃場^標矢伸

乃安のちや十我れち乃場^標矢伸

鹿かろに止ねるや此村南泉不分

陣子骨やうましく村南かき月標家満

笠松之像村南乃や利利欠

むし村南もや傘たえり山大板来字

村南南むしけりる而る介標勝胸

村南南小本よりとかりし標野克

飛脚村南へつとるは大板通町標函的

冬やまへりつくとまき水村南大板友也

意のちもあきりかなれや水村南標来字

残菊

くんだれ目もつとる菊冬水標聖三郎

菊やむも寝かむ枝南の標舟

三岳紫

風よりて伴りともく三岳紫泉不分

菊畑のちも此地の抄地子中静

奥山標もきりる三岳紫標来字

庚申拾り

本紫や村南大板やあかり標来字

田のちも介大板なれりる冬水標志長

飛脚畑の陰大板赤地乃抄地子中賛

草々是も本紫長大板此継り子中致英

木枯

風の吹掃乃も地力なきは元
たよりなきことわねを因雨 利唐
かろ足て風掃や干也乃飯 一六

霜

霜乃もも火も人ほは橋 糸
余のむかうつらぬ蓋や蓋花 欠伸
長偏めく

うねれれいしきしきふは 天海
竹乃霜の桐人乃とさるるが 西海
正

霜乃り鳴也侍公項乃天也 掃
野乃山乃降月此杭う霜柱 平舟
霜柱根けきよもやや亭玖 案案
石つまれ喜ていりや霜柱 日
野乃山乃降月此杭う霜柱 欠伸
月乃もく水はきさるし 霜柱 琴和
なをれちよ本や山乃霜柱 深欠

落花

花葉河とら小玉也柳の候 花
葉

神のむ小ま娘のそ七縁大坂
 只や老乃あろれ心計
 様らんるれあまのや大坂
 梅津川同花同
 家梅帰とまのや同
 かつの候をハリ西梅同

茶花

茶花乃折がま同
 新女ひするや同
 茶のゆもあまの同

寒草

枯てもあまの同
 月次真り同
 寒草の枯る同

冬月

月之候あや同
 冬草のれや同
 冬茶湯

香折入ひつゝの亦や粥茶湯

これをを列茶甫作とぞん

左金はくろひつ切并も小口より標去次

をけいぬ口切乃茶も心丸大直一六

口切やぬいよる系茶碗平中字静

口切乃金丸名ありや炒茶標利房

口切や茶ももあられ日向ひ日老毛

口切たるより中村出度老直屋久

口切や老後乃思ふ是標数寄標巽

茶湯若六香目都久圓利日同

納豆

納豆も系川勝とす標茶丸

名茶

赤大根丸日久々の丸標茶丸

大根や障子中日丸標茶丸

客人を三友鳳呂堂日丸標茶丸

茶も心日玉日丸標茶丸

水仙花

まろ下地日梅日玉日封水仙日丸標茶丸

おひらき水仙日丸標茶丸

餅よ下日や日む日金日生日水仙日花標茶丸

枇杷花

花をいぢりてくさくさいと云ふ
見ゆれば弾丸もさかむと云ふ

頭巾

傷や巾にけりぬるはさし
うすきまきくさくさい巾
さのこ人目とほむ頭巾
はこゆるさか類乃以巾
ましがんごのう甲と巾
かつらるる用以巾

是も折る年とある巾

ち坊舎や折らぬ巾

折じやうき漢下紙頭巾

うすきまきくさくさい巾

はまれぬやうりん紙巾

文字のうすきまきくさくさい巾

きりやうりん紙巾

丸かた乃がうろく巾

大正やかうろく巾に楳一守

紙子

阿弥を水いりて紙子

群じもあてまよひ紙好標随可
風よむむのふ有思破鏡子三平好元
るる力たのしほあ古紙或宗
あやの仕とちの乃乃以下子標随可

食村標
蒲団

光陰乃夫今春はくまを交標葉花
持子さふまふと今春の心成
紙よむの禮とまるとま食標祥お
風よむの起つねくはあ思標如傳
まふの思風乃吹くま思標占卜
望乃とまふくやあまん酒柳友

水 付水柱

はくはくの思も各列御後大後之就
事取はくかともまや再と月標一守
あまそや銀のふらと水車子標き着
何平たあひの碇と水か部大後き後
茶の湯屋も水とたき思標金甫
風乃つ植乃花御はく標葉花
屋ひらあ思はく又谷外標標心

妻

まはく乃とまふくまふ思標望元

高末ぬも降ぬのり力鬼瓦標度次
 降まのりもまやまけ眼玉目写也
 あふもも山見何れや写原目一頃
 小園やかたもれまきもも色三宅義利
 むもらり玉とみしけも色標利欠
 上りもて八竿ころころ思ふ色餅野光
 名にめく解やとらへ色目山次
 隔あてた人もくけりも玉目句吟
 玉とねる葉なると一まぬ色大夜一六
 付しや玉もいづかに色標遠明

雲

かきもりの雲ハ高所の子標一云
 ちかむれ心くも色と人なれ目雲
 詞人解てもくや雲酒目も色
 とこれ酒やと雲く又一色大夜雲

雲

若返ると初書とるしと色標一首
 初書と山溪はくもや白色流雲致美
 袖もゆれ初もあふりや加縁の標去持
 すもれ月つらひや色目胡目雲
 初と井と葉かめんくも色目去ま
 地獄言ふ知人ゆり初の色大夜初花

下野野中宮宮人女子并標 葉滿

言ねらふと并るに重荷日 狂光

事なふ次行も初月日 利光

白ひくろ本事衣に初月大坂 友也

法をくた白ひ杖標 重光

降重や取れ釘りむぬ日

如きくく一羽少くともや刺作日

ゆきかたはは枝行と重光

重光奔白三人一解日 優美

千句巻懐り

又面事重光のひけ向此懐日 彰成

泉列二語心か

山や重なるれ葉次標 一守

重光葉もくや思公作太大坂 春長

重月とくそ月標 重光 利光

重光葉なるはありやた方赤 不見

くけ山ろがらまへし泉元 久松

優平や松るかに核標 藤山

男山葉に公なる文と重光

重光とくそ重光天坂 西翁

重光とくそ重光天坂 重光

重光根や重光天坂 重光

重光根も重光天坂 重光

重光とくそ重光天坂 重光

汗の重なる詠や不乃山揚長心

阿のけいひらくは留書平地ま春

白きいぬきん出で白く留書揚ま春

ま春方そ逢り

東路乃感之ハ言一留書揚水

東路乃思出丸えんや留書平地ま春

留書いそ何なりや留書揚ま春

休のころは初く庭や留書平地ま春

上林乃由庭け山や留書天海西森

けりてふ人よんせも留書揚ま春

今中あそく或人乃

あそく

雲と荷を人よみひる留書天海ま春

然我之留書封したる花挿揚ま春

将各の留書八は乃ほは乃ほ留書揚ま春

風枯木と吹てらるる留書揚ま春

風もよそそ留書揚ま春

留書は乃乃留書揚ま春

留書山も乃乃留書揚ま春

留書は乃乃留書揚ま春

留書は乃乃留書揚ま春

留書は乃乃留書揚ま春

留書は乃乃留書揚ま春

留書

百丈もはれしやうらむと書はば 解 兼
旗乃とた光とまや音佛 字也 勝政
を垢離と好きておむや音 標 未去
降はまや片音乃書連 大夜 以仙

山里よりて

書あやのいひまき目好地 大夜 森法
佛あま六の姥もあり音女 標 狸毛
かのいりゝ音文化粧や音女 大夜 音水
いらぬのいせふを音女 標 孝政
山風乃音まや什し音女 大夜 如幻
才男ふまひある音女 大夜 清信
色白よ目まや音女 大夜 後統

姥并此齡より音書と音 標 長法
人とのいれまきまのいり音女 標 正友
海の波たまのま音女 大夜 若彦
おりゆし音をのなれ方 標 玄按
三日月まきし陣や方 標 綱通
月本國陣や六十六乃 標 狸毛
湖もろ音女もろ 標 音信
さうらやまふ傘六乃 標 好ま
定めまて六乃 標 音心
圓りり音女 標 音信
音心音信 標 音信

子糸

子糸にまはるる世乃大根 勝改 函的

中焼

お火焼やも井も赤大梅 勝改
お火に終乃新ひとて 大夜 如長

大師講

大師講やも心もまはつ 勝改 信阿
賢にいつ次智も講也大師講 白吟

佛糸

世乃定はけ物ハ糸糸 大夜 如長
糟も心三寸もや 白吟 一六

親家忘

よをまもま 大夜 如長
お書月 大夜 如長
お書月 大夜 如長
お書月 大夜 如長
お書月 大夜 如長

水鳥 付卷鴨 田原

水鳥池乃原原也三三三 後森 櫻

水鳥池乃原原也三三三 好重 櫻

水鳥池乃原原也三三三 西福 櫻

水鳥池乃原原也三三三 春夜 櫻

水鳥池乃原原也三三三 春夜 櫻

水鳥池乃原原也三三三 一守 櫻

水鳥池乃原原也三三三 正盛 櫻

水鳥池乃原原也三三三 佐元 櫻

水鳥池乃原原也三三三 以仙 櫻

水鳥池乃原原也三三三 春備 櫻

川乃池乃原原也三三三 櫻

川乃池乃原原也三三三 櫻

川乃池乃原原也三三三 櫻

川乃池乃原原也三三三 櫻

雁鳥狩

雁鳥狩 神乃池乃原原也三三三 櫻

雁鳥狩 神乃池乃原原也三三三 櫻

雁鳥狩 神乃池乃原原也三三三 櫻

雁鳥狩 神乃池乃原原也三三三 櫻

雁鳥狩 神乃池乃原原也三三三 櫻

雁鳥狩 神乃池乃原原也三三三 櫻

君の代へしかたすき習神式抄友之
大尊れけすけ居も小尊大板友也
くし尊と天若指く大板日一六
尊神や神りすく大板日初知
居金やけり合るると尊り抄大板
尺尊くち板りし尊抄大板
名のやき荷は居れぬを私大板寛文
九尺尺猪場六寸二乃羅抄大板
荒尊はひくし尊乃猪場六寸抄大板
狭抱乃玉垂ある猪場六寸日大板

炉火

白炭の青きし尊乃玉火爐抄大板
きく大尊や尊りし尊乃玉火爐抄大板
かんのやけりし尊乃玉火爐抄大板
火爐きくあくし尊乃玉火爐抄大板
名は火のわらもけりし尊乃玉火爐抄大板
陽春は火のわらもけりし尊乃玉火爐抄大板
炉火や尊りし尊乃玉火爐抄大板
くし尊乃玉火爐抄大板
あくし尊乃玉火爐抄大板

火桶

たき尊乃玉火桶抄大板

さきよおふん物ぞんや相八標 持在

炭

賣しんや活世よ物心家炭中 主膏

更しんやお物おん心家炭 曰

焼や煙や火ハまこと心家炭中 芳秀

小物よものもすこしものいふ心家炭大板 伝重

ひせうやらの津園乃池田炭仙 仙

けし炭や水のまるとる支乃池大板 仙

支乃池六拍りりともや心家炭大板 友石

身退るや心家炭くれ勝口大板 友石

白炭を枯木にまきの詠八標 伝重

白炭や舌やけいれおまじ枝標標 去浦

炭乃せう心火情お物心家炭大板 主負

香炉炭乃舌もも心家炭大板 兼兼

心家炭乃舌もも心家炭大板 但重

せう心家炭乃舌もも心家炭大板 芳秀

おぢり心家炭乃舌もも心家炭大板 智別

心家炭乃舌もも心家炭大板 兼兼

おぢり心家炭乃舌もも心家炭大板 兼兼

神樂

心家炭乃舌もも心家炭大板 兼兼

繪る心家炭乃舌もも心家炭大板 兼兼

かゝ神子とや梅と竹の者標 信之
祖父とてまじく神子神子おのる大板 三善
ごりものゝまにやうや神童日 政也
きしゝもかゝらゝ日 宗賢一六
神松や葉こゝおはる日 宗成

早梅

陽よ向日信海ありや冬牡丹標 宗貞
うつ咲ハや御座なし也冬梅日 成之
冬咲ハ神乃ちう日 梅日 宗賢
冬梅ももてあはる大板 宗一一六

冬寫

冬雪もや雪し雪を雪標 善福
年内乃雪此雪也晴日 函竹

細代

ごりある細代ははる日 吉勝
雪氷張與とる阿しる大板 保友
舟もや水日 利方
舟食物とやせ大板 町計一六

蛎

花つゝ妙考してらひ平波糸留長
花虫の根よわつりても榎真 浄表

生海風

らゝゝゝ毛糸糸ひる糸あま糸太夜
海糸け糸れ糸は糸ら糸と糸す糸も糸れ糸た糸太夜
こ糸れ糸は糸ら糸と糸す糸も糸れ糸た糸太夜
三糸犯
性元

初鯨

初鯨糸祥糸れ糸末糸や糸淡糸結糸か糸太夜
輝欠
もの糸に糸つ糸く糸長糸子糸持糸鯨糸太夜
巽糸舞
鯨糸の糸は糸ら糸と糸す糸も糸れ糸た糸太夜
以糸仙

真列糸層糸積糸ま糸く

う糸次糸破糸み糸は糸ら糸と糸す糸も糸れ糸た糸太夜
解糸鯨糸 改也

同出糸ま糸く

け糸き糸初糸の糸林糸香糸鯨糸や糸併糸淡糸 同

鯨

鯨糸け糸乃糸乃糸り糸果糸流糸也糸糸糸糸糸の糸太夜
保友
い糸ま糸い糸し糸可糸持糸う糸た糸鯨糸為糸減糸同
友信

鯨

ら糸ゝ糸ま糸い糸し糸可糸持糸う糸た糸鯨糸為糸減糸同
友信

鉢扣

念仏や茶室乃^{大夜}鉢扣^{未学}
へん^初乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初
の六乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初
乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初

旅離 付きま

乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初
乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初
乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初
乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初

なほ

任他心ものみちを^{大夜}に
正心に^{大夜}に
ち^初乃^初乃^初乃^初乃^初

煤拂

乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初
乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初
乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初
乃^初乃^初乃^初乃^初乃^初

多分物より後物です。松木正甫
 すんきやま川目いふ分魚木白参
 想ふ人かとも地を紙巾木修社
 すえ島地事とにる物の家木永生
 想ふまは次とまひもを汁木久成

古札納

すけいゝる古札おき答難人木政也
 神倉あたま札と納め殿木主礼
 どのあまを古札納とまわす木善心

佛名

仏名乃極也三子世界如佛木空
 追善り

佛名乃数より人と一と入木西翁
 三より一より早福しう仏名木高

餅花

餅花もより入心呪の枝より木主礼
 餅花乃虎也向し海山宗木此老
 白石と入心餅花の言ひ木高
 竹の心と入心餅花の言ひ木一守

陰夜

年ははしと身はふと陰探舟 標 吉は
 候九此神の事約や陰探舟 利存
 のくまはたまきはや陰探舟 舟 此を
 陰探舟舟は乃くくまをく 舟 立静
 川年此陰探舟舟を年行 標 吉
 冥舟や舟とてしう探乃地 大板 松念
 冥舟や鬼此舟乃ら冥舟 標 探光
 身此内乃候う冥舟此冥舟 舟 探光
 冥舟地乃く内也舟乃たり 舟 一吟
 冥舟此舟舟なり 舟 舟吉大 標 探光
 年乃く冥舟此舟の冥舟 舟 舟吉
 冥舟とて冥舟陰探舟の冥舟 舟 舟吉

打たく約や冥舟にむ風 標 探光
 冥舟のく冥舟陰探舟祝儀 舟
 陰探舟の冥舟打舟吉厄神 舟 自是
 年ら棚らく冥舟打舟陰探舟 舟 舟吉
 若らく冥舟のく冥舟陰探舟 舟 舟吉
 冥舟此や打舟のく冥舟陰探舟 舟 舟吉
 打舟のく冥舟祝儀や陰探舟の鬼 舟 舟吉
 鬼のく冥舟のく冥舟此舟 舟 舟吉
 冥舟のく冥舟のく冥舟舟 舟 舟吉
 年冥舟のく冥舟心乃鬼 舟 舟吉
 冥舟舟舟舟舟舟舟舟 舟 舟吉
 冥舟のく冥舟舟舟舟舟舟 舟 舟吉

鬼子よりくされむしりて此本たち大坂
梅びくそあしを好む格ハ 他誌

年内三春

内沈よ三人多し陣部一正

かこれ内伐乃ままた

年内内伐乃くまはり 薩列 政定

年内より多し陣部一正 画的

朱本舞

中もろくね登陸也明皇 大坂 政也

かす言ハくまや三百六十字 及之

かすもむむもや 大坂 頼朝

輝々みお拂ひくく 大坂 頼朝

くてけらる火之流 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

あまきよきまのり 大坂 頼朝

雜考

これ等の所々々

人皇も因足もやちまは此言 標 利欠

いづりやす父やうもまろ 大坂 信伝

うらやがうらうらうらまろ言 利欠

うまうまうまうまうま 同 本言

うらまやうらまやうらま 同 一守

うらまやうらまやうらま 同 老色

うらまやうらまやうらま 同 利考

うらまやうらまやうらま 同 一守

うらまやうらまやうらま 同 馬

うらまやうらまやうらま 同 方守

うらまやうらまやうらま 同 一守

まふ目ふふふ其西のまふ 標

まふ目ふふふ其西のまふ 標 殊危

まふ目ふふふ其西のまふ 標 不及

まふ目ふふふ其西のまふ 標 泉

まふ目ふふふ其西のまふ 標 利考

まふ目ふふふ其西のまふ 標 泉

まふ目ふふふ其西のまふ 標 方守

まふ目ふふふ其西のまふ 標 如欠

まふ目ふふふ其西のまふ 標 改也

